

思春期課題の基本的ニーズの把握方法に関する研究

—男子大学生へのインタビュー調査—

研究代表者 永光信一郎（福岡大学医学部）
研究分担者 松浦 賢長（福岡県立大学看護学部）
研究協力者 原田 直樹（福岡県立大学看護学部）
研究協力者 渡邊多恵子（淑徳大学看護栄養学部）
研究協力者 梶原由紀子（福岡県立大学看護学部）

研究要旨

成育医療等基本方針から導いた思春期課題に関連する知識・情報 22 項目に関して、そのニーズを把握することと把握方法を検討することを目的としたインタビュー調査を行った。前年度は女子大学生を対象としたが、今回は男子大学生を対象とした。

学校から知識・情報を得たとする項目は複数あったが、詳細な理解には至っていないものがほとんどであった。自身が当事者性のある課題については自ら知識・情報を求めており、特に心の問題、自殺、不登校については当事者性の有無でニーズの高さに差が見られた。一方で、性感染症、避妊、予期せぬ妊娠、中絶についても当事者性の有無でニーズの高さに差が見られたが、得られた知識・情報への信憑性についての懸念があったことが明らかにされた。

各項目の理解は「妊娠、出産等についての希望を実現する」及び「心の問題に関する知識・情報」という表現以外は難しいところは見られなかった。今後は、今後は、研究対象者を増やして、情報を詳細に分析するとともに、男女の性差も踏まえながら分析を進め、思春期課題のニーズ整理と項目開発を進める必要がある。

A. 研究目的

成育医療等基本方針の「Ⅱ－２－（４）学童期及び思春期における保健施策」に記載されている保健施策・思春期課題に関して、現在青年期にある大学生を対象に、インタビュー形式で思春期の“自分”に必要な（当時それらを得た記憶がない）と考える知識・情報等について基本的ニーズを把握する方法を開発することを目的とする。同時に把握されたニーズをもって思春期課題への組織的対応の設計・社会実装に資することを目指す。

B. 研究方法

A 大学の大学生2名を対象にインタビューを行った。対象者はいずれも20歳を超えた男子学生であった。インタビューを行った者は同性の研究者である。なお、感染対策として、インタビューはオンラインにて実施した。インタビューする項目については、成育医療等基本方針の「Ⅱ－２－（４）学童期及び思春期における保健施策」を中心に22項目を導き出した。なお、こちらの22項目（表1）を対象者にも開示・共有してインタビューを進めた。

表 1. 試作したインタビュー22 項目

- ・栄養・食生活や運動等の生活習慣に関する知識・情報
 - ・やせや肥満に関する知識・情報
 - ・健全な口腔機能の保持・増進に関する知識・情報
 - ・アレルギーに関する知識・情報
 - ・月経に関する知識・情報
 - ・妊娠、出産等についての希望を実現するための知識・情報
 - ・妊娠・出産等に関する医学的・科学的に正しい知識・情報
 - ・避妊や予期せぬ妊娠に関する知識・情報
 - ・人工妊娠中絶に関する知識・情報
 - ・梅毒及びH I V感染症を含む性感染症問題に関する知識・情報
 - ・がんやがんの予防に関する知識・情報
 - ・性暴力・性被害に関する知識・情報
 - ・性的虐待に関する知識・情報
 - ・心の問題に関する知識・情報
 - ・自殺に関する知識・情報
 - ・ゲーム依存に関する知識・情報
 - ・姿勢や運動器に関する知識・情報
 - ・不登校に関する知識・情報
 - ・発達障害や特性に関する知識・情報
 - ・スポーツと健康に関する知識・情報・タバコやアルコールに関する知識・情報
 - ・大麻や覚醒剤、違法ドラッグ等の薬物に関する知識・情報
- (倫理面への配慮) 対象者には、研究参加は任意であること、途中で中止できること、研究参加の可否で不利益を被ることはないことを研究協力者が口頭で説明し、了承の上で参加してもらった。性に関する内容を含むこと及び医療機関等に繋ぐべき内容が語られる可能性があることを鑑み、インタビューを行う者は同性の研究者とし、また適切な支援を行うことを研究者と研究協力者で合意した上で、インタビューに臨んだ。

C. 研究結果

男子学生2 名を対象にしたインタビュー調査結果を下記に項目ごとにまとめた。各項目の知識・情報等に関して、当時のニーズ状況に関しては◎を、現在振り返ってのニーズに関し

ては○を、さらに各項目の質問・方法に関しては●を付した。

【栄養・食生活や運動等の生活習慣に関する知識・情報】

- ◎学校で習う程度の知識を得ていた。
- ◎三大栄養素レベルの知識はあった。学校で得ていた。
- 運動の基礎的な習慣を身に付ける大切さを知りたかった。
- 幼いころからスポーツをしていたので、運動をする上で体作りに必要な栄養素などを知りたかった。

【やせや肥満に関する知識・情報】

- ◎自分なりの外見上の太っている、やせているという感覚で、ちょうどよい思う体重について考えていた。
- ◎肥満は健康によくないという知識はあったが、やせについては知らなかった。
- ◎スポーツの経験から体づくりに関心があったのでBMI 等の基準を知っていた。
- 特にやせが健康に与える影響は知りたかった。
- BMI 等を踏まえてもっと詳しく知りたかった。

【健全な口腔機能の保持・増進に関する知識・情報】

- ◎虫歯予防に歯みがきが大切程度は知っていたが、歯周病は知らなかった。
- ◎保護者に教えられて定期的な歯科受診が虫歯予防に必要であることは知っていたし、受診もしていた。
- 定期的な歯科受診は虫歯がないとその必要性の認識が薄れてしまうように思った。
- 定期受診は歯周病を含めた健康の保持に意義あるということを知りたかった。

【アレルギーに関する知識・情報】

- ◎自分がアレルギー疾患に罹患していたので、友人よりは知識があった。疾患の種類、気を付けるべき食事内容などの知識はあった。
- ◎自分や近い友人にアレルギー疾患がある人がいなかったので何も知らなかった。
- 疾患の種類など基礎的な知識くらいは知っておきたかった。

【月経に関する知識・情報】

◎女子には月経があるという程度の知識しかなかったし、特に知りたいとも思わなかったが、高校生時代に自分に恋人ができてから知識が増えた。

◎授業で習う程度の知識しかなかった。

○振り返っても思春期の頃には詳しい知識は必要ないように思う。なまじ詳しいと幼さからデリカシーのないことを言ってしまったり、中にはからかったりする者もいると思う。

【妊娠、出産等についての希望を実現するための知識・情報】

◎妊娠、出産のイメージがなかった。

○妊娠や出産は遠い未来のように感じていたので、今振り返っても知識が必要と思わない。

○振り返っても、基礎的知識があってもいいかと思う程度、詳しい内容が必要とは言えない。

●質問項目がイメージしにくい。「希望を実現する」という箇所には少し説明が必要。

【妊娠・出産等に関する医学的・科学的に正しい知識・情報】

◎妊娠の機序は知っていたが学校で習う程度もの。

◎思春期の頃に母親が妊娠をしたので、経験的に妊娠から出産までの過程を知っていた。

○妊婦の状況(身体の変化や生活上の制限など)を知れたらよかった。母親にももっと気を使えたように思う。

○思春期に妊婦体験のジャケットを付ける授業があったが、集団なので遊び感覚だった。実際の妊婦の生活に投影できなかった。妊婦体験をするなら個別に実施する方がいいと思った。

【避妊や予期せぬ妊娠に関する知識・情報】

◎授業で習った記憶はなく、性交経験がある友人がいて、避妊方法や妊娠検査薬のことについて聞いた。

◎なんとなく知っていたという程度。具体的な内容までは知らなかった。

○友人に聞いただけでは何が正しいかわからなかった。避妊に関する正しい知識が欲しかった。

○学校の授業で取り上げてほしかった。

【人工妊娠中絶に関する知識・情報】

◎授業で習った記憶はなく、友人に性交経験がある者がいて、人工妊娠中絶のことについて

聞いた。

◎人工妊娠中絶という言葉は知っていたが、具体的な知識・情報は持っていなかった。

○学校の授業で取り上げてほしかった。

【梅毒及び HIV 感染症を含む性感染症問題に関する知識・情報】

◎高校生時代に自分に恋人ができてから意識するようになった。

◎性感染症に関する知識はなかった。

○高校生時代に性感染症の知識・情報を得たかった。

【がんやがんの予防に関する知識・情報】

◎喫煙や飲酒が関係しているのは知っていたが、詳しい知識はなかった。

◎がんやがんの予防に関する知識・情報は持っていなかった。

○思春期の子どもにとって、がんは漠然とした怖さしかない。しかし詳しい知識・情報の必要性はさほど感じない。

【性暴力・性被害に関する知識・情報】

◎性暴力・性被害についての知識・情報は持っていなかった。

○恋人ができる者が見え始めた頃(高校生以上)なら、性暴力に関する知識・情報は必要と思う。

○詳しい知識・情報の必要性はさほど感じない。

【性的虐待に関する知識・情報】

◎高校生時代に授業で習って、児童虐待の種類の一つとして知っていた。

◎知識・情報はなかった。

○何が虐待に当たるのかを知ることで、自分が受けている行為が虐待に該当するという判断ができる。知識・情報は必要。

○詳しい知識・情報の必要性はさほど感じない。

【心の問題に関する知識・情報】

◎高校生時代に精神疾患等について自分で調べて知った。

◎知識・情報はなかった。

○知識・情報は必要と思う。知っていたら友人にも違う関りができたかもしれない。

○思春期時期に目に見えない疾患や障害を理解することは難しい。場合によってははじめにつながる恐れがある。詳しい知識・情報は

いらなと思う。

- 質問項目がイメージしにくい。「心の問題」が道徳や規範をイメージしてしまう。説明が必要。

【自殺に関する知識・情報】

- ◎高校生時代に自分がつらい時期を過ごすことがあって、自殺について自分で調べて知った。
- ◎ニュース等で思春期年代の子どもの自殺が少なくないことを知った。
- ◎自殺件数の多さや思春期時期の子どもの自殺の存在について知っておくべきと思う。
- ◎いじめが自殺につながる、本人の状況によっては些細なことが自殺につながる場合があること等を知っておくべきと思う。

【ゲーム依存に関する知識・情報】

- ◎言葉としては知っていた。
- ◎学校の指導の中で、ゲームをしすぎたらゲーム依存になるぞと言われたことがある。具体的な知識・情報は知らなかった。
- ◎振り返って、ゲーム依存についてどのようなものか知りたかった。自分も軽く考えていた。
- ◎詳しい知識・情報を与えられても聞かないと思う。

【姿勢や運動器に関する知識・情報】

- ◎姿勢については家庭でも言われていた。
- ◎猫背はダメと言われていたことは覚えている。
- ◎運動器に関する知識・情報は持っていなかった。
- ◎何がいけなくて、どのように健康に影響するか知りたかった。
- ◎知識・情報はあってもいいかなと思う程度。さほど必要性は感じない。

【不登校に関する知識・情報】

- ◎言葉としては知っていたが、学校に来ることができないという程度のイメージしかなかった。
- ◎友人に不登校の子かいたなという程度。
- ◎自分が学校に行けない時期があったので、高校生時代に不登校について自分で調べて知った。
- ◎学校に戻る手段や方法は知りたいと思わなかった。
- ◎学校に戻らずとも選択できる選択肢の知識・

情報を自分で調べていた。

- ◎学校内や学校外で、身近に相談できるところの情報が欲しかった。
- ◎職員室には入れなかったし、電話相談の情報をもらっても思春期の子どもは電話すること自体のハードルが高い。保健室に行けるようになって楽になった。保健室には行っていないという情報が早めにほしかった。
- ◎不登校の子どもへの関わり方の知識・情報が欲しかった。友人に違った関りができたかもしれない。

【発達障害や特性に関する知識・情報】

- ◎同じクラスに発達障害の子がいた。そんな障害があるというのは知っていた。
- ◎障害があるというのは知っていたが、特性など詳しい知識・情報は持っていなかった。
- ◎思春期時期に目に見えない疾患や障害を理解することは難しい。場合によってはいじめにつながる恐れがある。詳しい知識・情報はいらなと思う。
- ◎発達障害の子どもへの関わり方の知識・情報が欲しかった。友人に違った関りができたかもしれない。

【スポーツと健康に関する知識・情報】

- ◎自分がスポーツをしていたので、スポーツの大切さは友人に比べて知っていた方だと思う。
- ◎運動はした方がよいという程度の知識しかなかった。
- ◎大人になって以降の健康のために思春期からの運動習慣が大切ということを知りたかった。

【タバコやアルコールに関する知識・情報】

- ◎タバコやアルコールが法律で禁じられていること、がんの原因となるなど健康を害することは知っていた。
- ◎体への害は知っていた。
- ◎思春期はタバコやアルコールに興味を持ち恥じる頃なので、その予防として健康への影響は知っておいた方がよい。
- ◎タバコやアルコールが、なぜ大人は許されて子どもは禁じられているのか、その理由を知りたかった。

【大麻や覚醒剤、違法ドラッグ等の薬物に関する知識・情報】

- ◎学校ではほぼ毎年、薬物乱用防止教室が実施されていたので、薬物の種類や身体への影響についての知識は持っていた。
- 授業で取り上げていたことは覚えているが、内容はほとんど覚えていない。授業方法の工夫が必要なかもしれない。

【その他】

- ◎中学校の頃の性教育は内容がきれいすぎると感じる。予期せぬ妊娠や人工妊娠中絶なども取り扱った方がよいと思った。

D. 考察

22項目それぞれについて、2名から別々にインタビューをした結果を得た。学校の授業や指導の中で学んだり聞いたりして知識・情報を得ていたとする項目がいくつか散見されたが、内容までしっかりと理解できている項目はわずかであった。とりわけ月経や妊娠といった女性の性に関する知識・情報、薬物関連の知識・情報は、授業で何度も取り上げられてはいるものの、具体的な内容までは理解ができていなかったとしている。

栄養や体型、運動に関する項目は、当事者性の有無で思春期当時のニーズが大きく異なっていた。思春期当時にスポーツに取り組んでいた者は体作りに関係する栄養や体型、運動には積極的に知識・情報を求めており、スポーツに取り組んでいない者は知識・情報の必要性を感じていなかった。一方で振り返ってのニーズでは、スポーツに取り組んでいた者は思春期時期とニーズは変わらないが、スポーツに取り組んでいなかった者は思春期当時に反して、もっと知識・情報があればよかったとしている。

さらにアレルギー疾患、心の問題、自殺、不登校についても当事者性の有無で思春期当時のニーズが大きく異なっていた。思春期当時にそれぞれの課題を有していた者は思春期当時から積極的に知識・情報を求めていた。とりわけ不登校に関しては、不登校の経験の有無に限らず、振り返ってみて知識・情報があるとよかったとしたものの、内容は大きく異なっていた。不登校経験がある者は自身が学校復帰する以外の選択肢や相談窓口などの知識・情報を求め、不登校の経験がない者は不登校である友人への対応方法などの知識・情報を求めていた。

口腔関連や姿勢に関する項目では、知識・情報を家庭で得たとしていた。しかし、口腔について見てみると、歯磨きの大切さに対して、一

方は歯科の定期受診をするなど家庭による知識・情報の格差が考えられた。

性感染症は、中学校での授業での知識・情報の獲得は困難であることがうかがえた。避妊、予期せぬ妊娠、中絶とともに高校生年代に自身に交際相手ができたり、友人から話を聞いて知識・情報を得ていたりしたが、より正確な情報を求めており、発達段階と性行動の拡大に応じてタイムリーに知識・情報の提供が必要と考える。

今回、月経や妊娠といった、異性の性に関する項目では、過去の学校教育において、一定の知識・情報を得ていることが明らかとなったが、一方で詳しすぎる知識や妊婦体験等の詳細な教育については、思春期男子には戸惑いを生じさせてしまう可能性が示唆された。特に妊婦体験は、集団で実施することで遊び感覚となってしまうと、実際の妊婦の生活に投影できなかったという述懐があり、授業方法の在り方についても検討が必要であることが考えられる。

今回試作した22項目については、女子学生と同様に「妊娠、出産等についての希望を実現するための知識・情報」及び「心の問題に関する知識・情報」に関しては、ニーズ把握に関して文言を平易化する必要があることが明らかになった。さらに今後は、研究対象者を増やして、情報を詳細に分析するとともに、男女の性差も踏まえながら分析を進め、思春期課題のニーズ整理と項目開発を進める必要がある。

E. 結論

成育医療等基本方針から導いた思春期課題に関連する知識・情報22項目に関して、そのニーズを把握することと把握方法を検討することを目的として、男子大学生にインタビュー調査を行った。学校から知識・情報を得たとする項目は複数あったが、詳細な理解には至っていないものがほとんどであった。

自身が当事者性のある課題については自ら知識・情報を求めており、特に心の問題、自殺、不登校については当事者性の有無でニーズの高さに差が見られた。一方で、性感染症、避妊、予期せぬ妊娠、中絶についても当事者性の有無でニーズの高さに差が見られたが、得られた知識・情報への信憑性についての懸念があったことが明らかにされた。

各項目の理解は「妊娠、出産等についての希望を実現する」及び「心の問題に関する知識・情報」という表現以外は難しいところは見られ

なかった。今後は、今後は、研究対象者を増やして、情報を詳細に分析するとともに、男女の性差も踏まえながら分析を進め、思春期課題のニーズ整理と項目開発を進める必要がある。

【参考文献】

- 1) 文部科学省：小学校学習指導要領（平成 29 年告示），2017.
- 2) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年告示），2017.
- 3) 文部科学省：高等学校学校学習指導要領（平成 30 年告示），2018.

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし